■効果の見える治水事業

愛媛県　浅川広域河川改修事業（今治市）

愛媛県東予地方局今治土木事務所長　今井（いまい）　良計（よしかず）

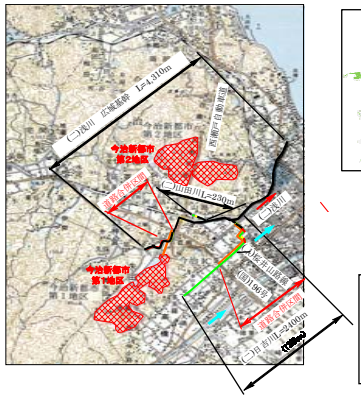
■事業の概要

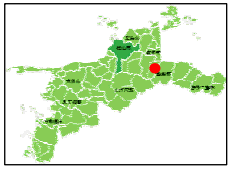
（二）浅川は、日吉川、山田川などの支川を有し、今治市の市街地を流れる都市河川です。昭和47年7月の集中豪雨により氾濫し、その被害面積は780haにおよび、浸水家屋4，900戸、工場160棟、その他50戸が被害を受けました。これを契機に洪水から地域を守るためには、狭小な断面を拡大し浸水被害の軽減を図る必要があることから、昭和48年度から河川改修事業（6，940m）に着手し、平成13年度からは今治新都市開発整備事業に関連して住宅市街地基盤整備事業を導入し、通常の治水事業と併せて改修を進めています。

改修延長6，940m（浅川；4，310m、日吉川；2，400m、山田川；230m）、21年度末改修済；4，885m、進捗率；70%

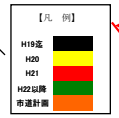
（二）浅川水系日吉川についても、平成16年10月の台風第23号により、床下浸水32戸、田畑浸水被害33haの被害が発生しており、早急に地域の安全・安心を確保するため、市道宮脇片山線（浅川合流部）から国道196号までの区間（1，200m）を平成11年度に着手し、早期整備区間として、鋭意事業を進めているところです。また、本区間は、住宅地内を流下しているため、河川事業に併せて両岸に今治市道（W=5m）の整備を行い、市街地へのアクセス性や周辺地域の利便性の向上など、道路機能の拡充も図ることとしています。

平成21年度までには、早期整備区間（1，200m）のうち、245m区間の工事が完了し、555m区間の工事についても既に着手しており、周辺の治水効果が着実に現れるなど、安全で安心な地域づくりに大きく貢献しているものと考えております。

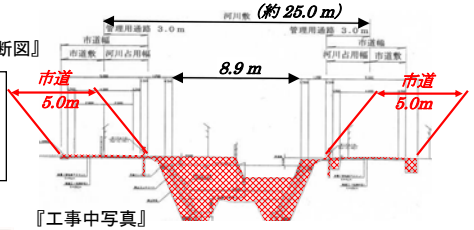




【事業概要（日吉川）】
- 施工位置；今治市
- 事業期間；H11～
- 確率年　；1/30
- 計画流量；45 ㎥/s
  （現況の約3.4倍）～現況流量；13 ㎥/s
- 計画延長；2,400m



『標準横断図』



『完成後のイメージ』

『工事中写真』

『21 世紀は水の時代』

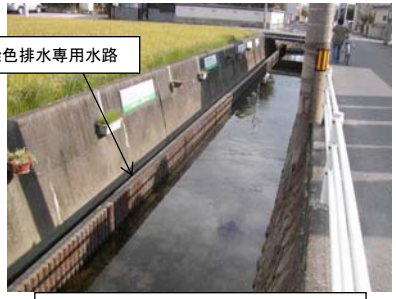
今治市長　菅（かん）　良二（りょうじ）

今治市は、古くから海上交通の要衝として栄え、愛媛県の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。平成 17 年 1 月に 12 市町村という大きな枠組みでの新設合併を果たし、人口規模では県下第 2 位、四国でも県庁所在地に次ぐ第 5 位、約 17 万 4 千人の市になりました。また、市の中心部を来島海峡が横断するという特異な市域を持っており、島しょ部を通る“瀬戸内しまなみ海道”で、広島県尾道市と結ばれています。瀬戸内海国立公園の中心部に位置し、東洋のエーゲ海ともいわれる多島美やそれらを結ぶしまなみ海道をはじめとする素晴らしい景観、歴史文化遺跡、伝統芸能、美術館や博物館、温泉地などのほか、山海の食材など多彩な地域資源に恵まれています。また、タオル、造船・海事関連産業では、他の地域に類がないほど集積化が進んでおり、石油関連事業、食品産業などを含めた工業生産高では四国一を誇っています。

このように美しい自然と産業が調和し、発展をし続ける本市ですが、かつて中心市街地を流れる金星川・泉川は七色に変化する川でした。これは高度経済成長期におけるタオル生産量の急増に伴い、綿糸の染色に理想的な軟水が流れる蒼社川を水源とする金星川・泉川流域では染色工場が林立し、大量の染色排水を直接河川へ放流することが原因でした。結果、小魚やエビはいなくなり、地域住民には不快感を与え、市のイメージダウンにも繋がりました。また、下流域では浸水被害が発生し、住民の安全を脅かす状態となっていました。

そこで河川事業と下水道事業が一体となり、かつての清流復元に向けた事業を進めることとしました。河川事業として、染色排水の専用水路を整備し河川との分離を図り、あわせて親水護岸、漁礁ブロック、河床整備等を行いました。また、下水道事業として浸水対策の雨水バイパス管渠を整備しました。現在では河川本来の水の色を取り戻し、鯉や小魚などが泳ぎ、親水空間を設けたことにより地域住民の憩いの場所となっております。

最後に、21 世紀は水の時代と言われております。いま一度、人と水との関係を見つめなおし、「21 世紀は美しい水の時代」だったと言えるよう、河川、海岸、上下水道等、様々な水問題にアプローチしていきたいと思っております。



染色排水専用水路を河川より分離する

親水・川床整備を行う

清流が復元され、鯉や小魚の姿が見られる